

技術・家庭科学習指導案

府中市立第二中学校 篠原 晶子

1 学 年 第2学年

2 題材名 「わたしたちの生活と住まい」

3 題材設定の理由

題材観・・・阪神・淡路大震災以後，人々の「住まい」に対する関心が高まり，特に安全性において重視されるようになってきた。また，21世紀の超高齢化社会に向けて，社会はめまぐるしく変化している。これらのことは，無視できない現実であり，身近な問題として考えていかなければならない。「住まい」においても，この社会の変化に対応していく必要があると考えた。現代住宅の特徴や問題点に気づかせ，これからの住まいを考えるとともに快適な住まいにする工夫について考え，実践する態度を育てるために重要な題材としてとらえている。

生徒観・・・本学級の生徒は自分の生活についてしっかり考えることができ，住まいについても自分なりのアイデアを持ち，自分の将来の夢と住まいの夢を実現させようとしている。また，自分のことばで自分の意見を表現することもできる。しかし，人の意見を聞いて，自分の意見と重ね合わせながら新しいものを考えることは苦手で，友だちからの新しい意見を取り込むことがあまり十分ではない。また，指示待ちの傾向もある。そこで，住まいのことを考えながら，友だちの意見を含めてしっかりと創意工夫する学習を促したい。

指導観・・・本題材を通して住まいについて関心を持たせ，自分にとっての住まいの役割，住生活を整えることの必要性，家庭での事故防止と快適な住生活について考えさせ，家庭での実践につなげたい。また，家族の人数や家族構成，年齢構成によって住み方や住まいは変化すること，家族の生活様式と住まいの関係，自分の将来の住生活などさまざまな角度から考えさせたい。

4 題材の目標

家族が住むために必要な住まいの機能を理解できる。

家族が健康で安全・快適に住むために，室内環境の整備に関する具体的な方法を理解し，よりよい住み方を工夫し，実践することができる。

5 評価規準

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
安全で快適な室内環境の整備と住まい方について，関心をもって学習活動に取り組み，住生活をよりよくしようとしている。	安全で快適な室内環境の整備と住まい方について課題を見付け，その解決を目指して工夫している。	安全で快適な室内環境の整備と住まい方の工夫に関する基礎的な技術を身に付けている。	安全で快適な室内環境の整備と住まい方の工夫に関する基礎的な知識を身に付けている。

6 指導計画（全6時間）

次	学習内容	評価					評価方法
		関	創	技	知	主な評価規準	
1 住まいのはたらきとはなんだろう	・住まいの例から，その特徴とそこに生活している人の住み方を考える。 ・家族が住まう空間としての住居の機能を考え，まとめる。 ・日本の住まいと住み方の特徴をまとめる。					・住まいについて関心をもっている。 ・住居の基本的な機能がわかる。 ・気候風土等，地域の特性や生活を反映した住まいや住み方がわかる。	行動観察 ワークシート 自己評価 テスト
2 家族と住まいのかかわりを考えよう	・家族の生活と住み方とのかかわりについて考える。					・家族の生活のしかたによって住み方に違いがあることがわかる。	
3 家族が集まる場所を快適にしよう	・家族が集まる場所を快適にする工夫を考える。					・快適に住むための工夫が考えられる。	
4 健康で快適に住むために	・快適な室内環境の条件を考える。					・室内環境を整える必要性がわかる。 ・通風や換気を適切に行うことができる。	
5 安全に住むにはどうしたらよいだろう（本時）	・家庭内の事故の種類とその原因を知る。 ・安全な住み方の工夫を考える。					・室内の事故の種類や原因がわかる。 ・安全な住み方の工夫が考えられる。	
6 よりよい住まいと住み方を考えよう	・より住みやすい住まいにするための方法を考える。					・自分の住まいや教室，その周囲を安全で快適な環境にするための改善点を見付け，学習を生かしてその解決を目指し，工夫している。	行動観察 ワークシート 自己評価 テスト

7 本時の展開

(1) 本時の目標

「家庭内事故の種類とその原因」と「家庭内の事故の防ぎ方」が考えられ，安全な生活の仕方を工夫する。

生活する人の立場になって住まいの安全を考えようとする態度を養う。

(2) 評価規準

生活を工夫し創造する力

安全な住まい方について考え，工夫している。

生活の技能

調査などを通して，安全な室内環境の整備について実践できる。

生活や技術についての知識・理解

家庭内で事故が起こりやすい場所と原因が理解できる。

(3) 準備物

ワークシート

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準	評価方法
1 家庭内事故の現状を確かめる。	・家庭内の事故の資料を見る。 ・自分の家庭での事故と結		
自分の身近な空間の安全診断を実施しよう。			
2 住まいのホームドクターとして，家の中の安全チェックをする。 ・ 家の中の危険だと思ふ場所に赤マルをする。 ・ グループごとに危険箇所をすべて書き出す。	・ 2つの住まい例を見せ，班ごとにどちらかを選んで住まいの危険箇所を見つけさせる。	【知】事故が起こりやすい場所と原因が理解できる。	行動観察 ワークシート 自己評価
3 危険箇所を班でまとめ，発表，意見交換する。	・ 意見交換を通して，生活する立場から危険な箇所がないか，再確認させる。		
4 危険防止の対策を考える。	・ 対策を具体的に考えさせる。	【創】安全な住まい方について考え，工夫している。	
5 家庭内事故や災害に対する予防についてまとめる。 ・ 家庭での工夫 ・ インターネットでの調べ学習	・ 自分たちが家庭で気をつけていることや，調べたことをもとに考える。	【技】調査などを通して，安全な室内環境の整備について実践できる。	
6 次時の予告を聞く。	・ 本時の自己評価をさせ，次時の予告をする。		